

各学年とも、年度の後半戦がやってきました

3年生は、共通テストの出願が完了しました。いよいよ本格的な受験モードに入りますね。とかくこの時期は成績が伸びにくい時期ですので、不安になっている人も多いと思います。11月、12月の模試で、ここまでの学びの手ごたえを感じてこれるようになるといいですね。

1年生は、文理選択が終わり、これからの進路の方向が見えてくると思います。学部学科・大学調べもこれからさらに深掘りしていきましょう。今週実施の3年生との交流会も有効に生かしてください。

2年生は、いよいよ全教科の模試がはじまります。今のうちに英・数・国の見通しをたてておかないと、3年になってから理科・地歴公民に余裕がなくなります。そろそろ長期的な計画が必要になりますね。また、2年生の今頃から、様々な行事に「**高校生活最後の**」という枕詞がつくようになります。勉強に、部活に、遊びに充実した日々を送ってください。

なお、10月後半から11月前半あたりに秋の「オープンキャンパス」や「**大学祭**」、「**入試説明会**」が行われる大学も多いです。進路室前にもチラシがあります(持って行ってください)し、各大学のHPでも紹介されています。特に1・2年生は、忙しいとは思いますが、良い機会ですので今のうちにいくつか大学に行ってみることをお勧めします。

大学名から大学を見してみる

みなさん、**松坂桃李**という俳優を知っていますか？彼の「桃李」は本名で、この珍しい名前の由来は、漢文や世界史でおなじみ、**司馬遷**の『**史記**』の一節からとられているのだそうです。

漢の将軍**李広**という人物が、非常に人望の厚い人物であったため、**司馬遷**は彼について、「**桃李言わざれども下自ずから蹊を成す**」(桃や李(スモモ)の木は何も言わないが、その下には自然と人が集まって道ができる)と評していました。李広のように人望のある人になって欲しい、という願いで「桃李」と名付けたそうです。いい話ですね。

この元になる文が「**桃李不言下自成蹊**」です。おや、何かに気がつきませんか？そう、この故事、というか逸話をもとにつけられた大学が「**成蹊大学**」なのです。これで松坂桃李が成蹊大学出身だったらよくてきた話ですが、さすがにそこまでうまい話ではありませんでした。

というわけで、今回は何となく目にしているけど、実はあまり知らない大学の名前の由来を調べてみました。名前の由来なんて、と思うかもしれませんが、**大学の名前は開学の精神**でもあります。つまり、**大学名もアドミッションポリシー**と言えるでしょう。もちろん多くの国公立大学は地名そのままなので、今回はほとんど私立大学の話になります。

まず、早慶からですが、**早稲田大学**は当然地名。一方、**慶應義塾大学**はご存じ元号です。元号の大学名といえば、**明治大学**・**大正大学**がありますね。ちなみに、昭和大学は2025年3月までありましたが、4月から**昭和医科大学**に戻ったので今は存在しません。平成や令和も、〇〇平成大学、令和〇〇大学という名称ではあります。なお、慶應の前の元号は元治ですが、さすがに元治大学はないですね(登場するマンガとかあるようですが)。

続いていくつかキリスト教系の大学の名前を見してみます。まずは**上智大学**です。上智大学の英語名は「**Sophia University**」です。世界史選択者ならおなじみ「ソフィスト(智慧ある者)」に含まれるSophia(智:ギリシア語で「ΣΟΦΙΑ」)が大学名になっています。上智大学はイエズス会が設立した**カトリック系**の大学です。ですので、イエズス会がソフィア大学を作って、上智大学にしたのだなとずっと思っていました。ところが調べてみると、もともとは「**Sapientia**」という学校名を考えていたそうです。Sapientiaとはラテン語で「叡知」、ご存じホモ・サピエンスのサピエンスですね。これを「上智」と訳して上智大学が開学されました。その後10~20年ぐらいてしてからJô(ジョウ)の発音が外国人には発音しにくい(ちなみに、スペイン語だとJôは「ホ」になるんじゃないかな?)から、いい訳語が欲し

いと検討され、結果 Sophia を訳語として採用されたそうです。詳しくは上智大学の HP を見てください。つまり、「Sapientia」→「上智」→「Sophia」の順番なのですね。興味深いです。

キリスト教系の大学といえば、青山学院大学や、明治学院大学など、「学院」がつく大学には、プロテスタント系が多いです。細かく言うと、青山学院大学はアメリカのメソジスト監督教会、明治学院大学はアメリカの長老派がルーツにあります。これ以上はそれぞれの HP で。ちなみに明治学院大学はヘボン式ローマ字で知られる宣教師、ヘボン博士が関わっているのも面白いですね。また、立教大学も、イギリス国教会系のプロテスタント系で、「立教」はキリスト教の「布教・教育」を意味するそうです。関西だと、同志社大学は、創設者新島襄の「志を同じくする人々が集う結社（カンパニー）」という理念から名付けられました。これは、キリスト教の精神に基づき、自主的に運営される学校を目指したのだそうです。

それから「英和」とつく大学もキリスト教プロテスタント系が多いですね。これはもともと、「English and Japanese」（＝つまり英和辞典の英和と同じ）で、「英語教育を通じてキリスト教的教養を与える学校」という意味からつけられたそうです。

キリスト教系統ばかりになってしまったので、今度は法学系の大学です。まずは中央大学です。中央大学は、もともと「英吉利法律学校」でした。中央大学の大学名の由来は、社会の中枢を担う人材を養成するという説と、初代校長増島六一郎が学んだイギリスの法学院「ミドルテンプル」（中央法院）からとったという説があります。

法学系といえば、法律と政治を学ぶ法政大学も、そのままの大学名ですね。法政大学はもともと「東京法学社」という学校をルーツとしていますが、こちらはフランスの法学者ポアソナードの門下生が建てた学校で、フランス法学を学ぶ学校でした。

こうしてみると、中央大学・法政大学はそれぞれ「イギリス法」「フランス法」を学ぶ学校がルーツなのですね。

今度は中国の古典由来の大学名です。冒頭に成蹊大学の話をしました。よく並べられる成城大学も、中国の古典、四書五経の一つ、『詩経』の“大雅”の一節「哲夫成城」（哲夫城を成す）からとられたそうです。哲夫は「道理をわきまえ、見識の優れた人」を指し、「哲夫は城（くに）を形作るものである」ということだそうです。こちらも理想を掲げたよい大学名ですね。

二松学舎大学という大学があります。ちょっと知名度の低い小さな大学ですが、夏目漱石が学んだり、渋沢栄一や吉田茂が舎長だったこともある、国語・中国文学ならばちりりの大学です。この大学名は、唐の時代の名作家・韓愈（かんゆ）の「二本の松を向かいあわせに植えて、日々その松の樹の下で書物を読んだ」という故事から、二本の松＝学問の場所として名付けたそうです。かっこいいですね。

中国の古典由来だと、立命館大学もそうです。これも四書『孟子』にある「夭壽不貳、修身以俟之、所以立命也」＝「夭寿（ようじゅ）貳（たが）わず、身を修めて以て之れを俟（ま）つは、命を立つる所以なり」（短命か長命かを気にせず（疑わず）、ひたすら身を修めて天命を待つことが、人間の本分を全うすることである）」という一節からとっています。これもまたかっこいいですね。

最後に獨協大学を紹介します。この大学は明治期につくられた「獨逸学協会学校」を母体とし、それを略して大学名にしています。その名の通り、ドイツ語・ドイツ文化を学ぶことを中心につくられました。ここで面白いのが、日本では医学をドイツから学んだため、医者になるためにはドイツ語が必須となっていました。したがって、「獨逸学協会学校」出身者が医者になることも多く、その延長線上に獨協医科大学が設立されたのです。獨協大学は埼玉県、獨協医科大学は栃木県にあり、まったく別の大学ですが、経営母体は獨協学園ということになっています。

このように、大学名を見るだけでも、それぞれの大学が目指すところや文化的背景をうかがうことができますね。